

第 78 回歴史探訪の会「謎の女帝・飯豊天皇と布施氏ゆかりの置恩寺を巡る」

日時 : 令和 3 年 11 月 17 日

場所 : 奈良県 葛城市

世話人 : 田原 誠也

忍海駅(9:55 集合)～角刺神社(角刺宮跡)～歴史博物館～飯豊天皇陵～屋敷山公園～公民館(昼食)～置恩寺
～柿本神社・影現寺(記念撮影・集合写真)～新庄駅(解散) 9 kmコース

新型コロナウイルス感染症対策で密を避ける為、ガイドさん 1 人に対し 5 人迄の班編成でコースを巡る事になりました、



近鉄 忍海駅



歴史博物館前で受付を終わり 此の後班編成して出発

角刺神社(角刺宮跡)・・・葛城市 HP より



角刺神社



角刺神社 鏡池

角刺神社は、飯豊青皇女(いとよあおのひめみこ)が政(まつりごと)を行った忍海角刺宮跡として知られています。日本書紀によると、飯豊青皇女(いとよあおのひめみこ)は 2 人の弟が天皇の位を譲り合い、長く位につかなかつた為、忍海角刺宮で政を行い、自ら忍海飯豊青尊(おしみいとよのあおのみこと)と名乗った、と記されて

います。日本の歴史において、最初の女帝は推古天皇と言われており、日本書紀や古事記は彼女を天皇としては記していませんが、後世には彼女を天皇とする歴史書も残されています。また、角刺神社の東 500 メートルのところに袖の松旧跡があります。當麻寺の中將姫が曼荼羅をおるための蓮糸を角刺神社の鏡池の蓮よりとりたいと思い、祈願したところ願いのとおり蓮糸をとることができました。そのときに感謝の気持ちを植えたのが袖の松といわれています。

歴史博物館



歴史博物館



歴史博物館

飯豊天皇陵(いとよてんのうりょう)へ向かう



飯豊天皇陵(いとよてんのうりょう)

歴史の表舞台から立ち去った最初の女帝と言われる飯豊天皇の墓です。「古事記」・「日本書紀」によると、角刺神社(つのさしじんじゃ、葛城市歴史博物館南隣)で政務を執り行ったことが伝えられています。全長約 90m の前方後円墳。前方部を南西に向け、周濠を巡らしている。現在宮内庁により「飯豊(いとよ)天皇埴口(はにぐち)陵」に治定されて、その管理下にあり整備されています。周辺遺物から、6 世紀前半の築造と推定され、また、飯豊天皇は、「角刺神社」に祀られている飯豊青皇女で、別名忍海郎女(おしみのいらつめ)とも云い、古事記では代23

代顯宗(弘計)、代24代仁賢(億計)両天皇の伯母となっており、日本書紀では彼らの姉となっています。



飯豊天皇陵(いとよてんのうりょう)

※飯豊天皇・・・葛城市 HP より引用

五世紀末ごろ、雄略天皇(ゆうりゃくてんのう)によって葛城氏の宗家が滅ぼされました。その雄略天皇の死後即位した清寧天皇は、跡継ぎを残さないまま死去します。後継者を決めるため、葛城の忍海の人々が大王家につながる二人の皇子を見つけ出します。ところがこの皇子たち、億計王と弘計王の兄弟は互いに譲り合って、なかなか皇位につこうとしません。そこで、王位の空白を埋めるために臨時に政務を執り行ったのが飯豊女王でした。忍海の「高木の角刺宮」で政治を行い、その皇居は歌に詠まれるほど美しいものだったそうです。倭辺に見が欲しものは忍海のこの高城なる角刺の宮『日本書紀』(意味:大和のあたりで見たいものは、忍海にあるこの高城の角刺の宮です)飯豊天皇は、歴代天皇の系譜に名前を連ねていません。あくまでも臨時に政権を執っただけなので、正式に即位したとはみなされなかったからです。

※『扶桑略記』には「飯豊天皇」と記載されているものの、いくつかの記録があり、飯豊天皇の記述は一致しません。履中天皇の子とされたり、市辺押磐皇子の子とされたりします。ただ忍海部女王の呼ばれていたことから分かるように、飯豊女王がここ葛城の忍海で一時天皇の位につき、政治を執り行ったようです。飯豊天皇は、北花内にある墳墓「飯豊天皇埴口丘陵」に眠っています。

屋敷山公園・・・葛城市 HP より引用

葛城山の麓にある総面積約 58000 平方メートルの総合史跡公園です。敷地内には屋敷山古墳、公民館、体育館、図書館、グラウンド等があり、文化・スポーツの活動拠点になっています。屋敷山古墳とは 5 世紀の中頃の築造とされる前方後円墳(全長 135m)で、古代豪族葛城氏に関係するといわれ、国指定史跡です。



屋敷山公園

公民館で昼食

置恩寺(ちおんじ)・・・葛城市 HP より

本尊:薬師如来坐像。正式には医王山・布施山安養院置恩寺とし、高野山真言宗。寺伝には行基の開基とあるが、中世には布施寺とも称されたように、布施氏の氏寺として、栄枯盛衰を共にした。奈良時代のはじめ、行基が創建したと伝えられています。権一本造りの十一面観音立像が国の重要文化財に指定されています。



※十一面観音立像

榎一木造り。眉のわん曲が大きく、鼻筋が細く、微笑をたたえた顔立ちが優しく上品です。重心を少し左足にのせ、右足の力をぬいて立つプロポーションは、均整がとれた美しいものです。11世紀初め～中ごろに作られたものと推定されています。国指定重要文化財。

柿本神社(かきのもとじんじゃ)・・・葛城市 HP より

祭神は「万葉集」第一級の歌人と称される柿本人麻呂(かきのもとのひとまる)です。石見国(島根県益田市)で没した人麻呂を770年に改葬して、かたわらに社殿を建てたのが始まりといわれています。隣接する影現寺(ようげんじ)と共に、人麻呂の命日に毎年4月18日にはチンポンカンポン祭が行われます。人麻呂による葛城をしのぶ歌としては、「春楊(はるやなぎ) 葛木山に たつ雲の 立ちても坐ても 妹をしそ思ふ」があります。

※柿本人麻呂(かきのもとのひとまる)

葛城市柿本は、『万葉集』の代表的な歌人柿本人麻呂と深い縁があります。人麻呂の生誕地と伝えられ、人麻呂を祀る柿本神社は、宝亀元(770)年に人麻呂を改葬し、その傍らに社殿を建てたのが始まりと言われています。なお、柿本神社は他に天理市や兵庫県明石市、島根県益田市など全国にあります。人麻呂の生没年は明らかではありませんが、『万葉集』と『石見国風土記(いわみこくふどぎ)』によると、七代の天皇に仕え、石見国(島根県)に赴いていたことが分かります。本市柿本には人麻呂の屋敷があったとされる場所があり、「石見田(いわみだ)」と呼ばれています。

人麻呂は、『万葉集』に多数の優れた歌を残しています。特に長歌では、皇族をたたえる歌や死を悼む歌、また妻への思いを詠んだ相聞歌があり、雄大で荘重な歌風です。抒情歌人として高い成熟度を示し、万葉歌人の第一人

者とされ、現在では歌聖とあがめられています。葛城の地をしのお歌としては、「春柳 葛城山に たつ雲の 立ちても坐ても 妹をしそ思う」(巻 11 2453)があります。また、人麻呂の遠縁にあたると言われる真済(しんぜい)は、柿本神社の境内に人麿堂(現影現寺)を建立し、自らが彫ったとされる人麻呂の木造を安置しました。木像は、今でも柿本の人たちによって大切に保管されています。真済が人麻呂を尊び、前述の木像を祀って歌会を催していた記録が、影現寺に伝わっています。同寺にはその際詠まれた歌が奉納されており、長い年月を経た昭和の初めごろまで、地元の人たちによって歌が奉納されていました。さらに柿本神社では、人麻呂の命日とされる4月18日に毎年「チンポンカンポン祭」を行い、人麻呂を供養しています。

影現寺(ようげんじ)・・・葛城市 HP より

柿本山影現寺は、済衝2年(858年)に弘法大師空海の直弟子である真済上人によって開かれた高野山真言宗の寺院です。元来この地には、影現寺の創建前から柿本人麿を祀る柿本神社があり、神格化された柿本人麻呂を祀る柿本神社を護る神宮寺として建立されました。寺名の影現寺の「影現」の意味するところは、仏、菩薩が衆生を済度するために来臨されること指すとお経に記されています。

以下は記念撮影







記念撮影の後解散 新庄駅へ

新庄駅 新庄の由来・・・葛城市 HP より引用

新庄は高野街道に沿う集落でしたが、布施氏が屋敷山古墳とその周辺に新たな城を築いたことから、「新城」と呼ばれていたようです。関ヶ原の戦いののち、紀州・若山(現:和歌山)から入部した桑山一晴が、布施氏の新城跡に陣屋および家臣の屋敷を構築するとともに、その東方に商工業者が住む新しい城下町をつくりました。その陣屋や屋敷町、城下町を合わせて「新庄」と呼ばれるようになったとされています。

以上。

写真提供は上西さん。上西さん有難う御座いました。